

## 思いを熱く！早春のつどい

今年の新春のつどいは、食事をとりながら『変わりゆく千代田 開拓編』を見るところから始まりました。坂戸市にずっと住んでいる人たちの参加が多かったせいか映し出される街の姿に「ああ、あの場所は…」といった説明の声が何度も上がりました。

米軍基地化に反対し平和なまちづくりの象徴として1万本の桜の苗を植えていた坂戸の歴史を学んだ後は、参加した皆さんそれぞれが思いを語りそれぞれの声に耳を傾け合う時間が始まりました。

最初に新井竹子さんが話題提供として、「本当は本そのものを読んでほしい」と前置きした上で、ニュース56号(12月発行)で紹介した『戦後史の正体』からの抜粋を読み上げながら、本の読みどころを紹介しました。



また、「歌と歴史についての考察」が語られました。『船頭小唄』に秘められた作詞者の思いは何か、3月の「愛とヒューマンのコンサート」で歌われるであろう『広い河の岸边』の表面にはまだ出ていない本当の気持ちとは何かなど、このあたりについては今後のニュースの中で紹介できると思いますのでご期待ください。

大勢の人から今の思いが熱く語られた後は、2人目の話題提供者である石川裕一さんが、国民生活を犠牲にして軍事費は過去最大になっていること、海外で戦う自衛隊へと軍備増強がなされ、死の商人(軍需産業)が表舞台に現れてきたこと、国民には負担の押し付け、米軍には「思いやり」、大震災の被災者にこそ思いやりの政治を！国民生活を犠牲

にしてまで日米軍需産業に貢ぐ安部亡国政権は退場以外に道はない！と、根拠となる数字を示しながら交えて丁寧に語ってくれました。

その後は再び皆さんタイム。そのあたりについては皆さんから「つどいの感想」をいただきましたので、どうぞお読みください。

最後に、一昨年の沖縄戦全戦没者追悼式で沖縄の小学1年生が読み上げた『へいわって すてきだね』と9条を全員で唱和し、つどいで得られたあれこれの思い浮かべながら『故郷』を歌いました。(事務局)

## 早春のつどいの感想から

- ◆ 今日皆さんの平和への思いの貴重な発言を聞きながら、戦後70年の現在、再び戦争する国にはならない、憲法9条は絶対守らなければと痛感しました。平和な世の中にするために、微力ながら頑張るつもりです。(西坂戸 浅井時子)
- ◆ 九条の会さかどの早春のつどいに参加して、皆さまの話を聞き、勉強になりました。皆さまの前で話をするのが下手なので、まとまりがなくてごめんなさい。(末広町 藤原)
- ◆ 憲法前文の「政府の行為によって再び戦争の惨禍の起ることのないように」を現実の問題としてかみしめ護憲に頑張りましょう。(S)
- ◆ 今日は「早春のつどい」に参加でき、皆さんの想いを自分の力にすることができ、本当に良かったと思います。戦後70年目にして安倍首相を中心とするこんな政府ができ九条をなきものにしてしようとしていること、戦後生まれの私としては、ほんとのところとても驚いています。

実は孫が近所に住む自衛隊員に誘われ入間基地の航空ショーを観に行き「とてもかっこ良かった」と感激しているのです。彼らは積極的に近所の子もたちを誘っているようなので恐怖でびっくり。でもこれからすぐ孫とどんな話をしていこうと考えました。

私たちの身に迫る戦争の臭いを速くきちんとと

## 発見！市民活動フェア

九条の会さかどもブースを出します！

日時 3月14日(土)10時～15時(途中からでも途中まででもご参加を)

会場 入西地域交流センター(九条ブースは2階にあります)

参加費 なし(スタンプラリーや古本市もお楽しみに！)

坂戸市民や坂戸で市民活動・ボランティア活動をしている活発な皆さんと交流できます。市のイベントで9条を語りあえる、貴重な機会にご参加を！

らえることの必要な時代です。平和・9条を守るために頑張りましょう。(吉村絢美)

◆ 日本国憲法第9条末尾の「交戦権はこれを認めない」。いつか日本が歩いてきた道にまた軍靴の音がカッカツと近づいて来る。自民党の安倍は危険人物。日本のヒットラーが暴走する。これを国民の声で止めないと、日本の平和は崩れ、日本は滅亡する。頑張ろう！

◆ 現在の安倍政権の狙っている自衛隊が海外で戦闘行為をする危険性が日を追って現実化しつつあります。周囲の人達に事実を知らせ、9条を守る声を大きく広げるために自分のできることを力一杯取り組みたいと思います。(末広町 石川裕一)

◆ 今までになく多くの方の参加があり、充実した会となって良かったです。

この年は特に憲法について深く考えねばならなくさせられている。日本は九条を持っているからと、世界に認められていたのだと、現在改めて思われています。

「イスラム国」で2人殺されたのも総理の行動のまずさがからんでいるのではと思わされます。それなのに支持率が上がっているというのはおかしな現象。私たちの真価が問われているのだからがんばらねば…。(新井竹子)

◆ 最近の議論の中に政治家も含めて憲法99条が示す憲法の尊重義務、擁護義務の発言が聞こえてこないことが心配です。我々の運動が押されているのだろうか。(井原 求)

◆ 全員の発言、良かった。これからは呼びかけ人に案内を配ったら良いと思います。

◆ 今日の「早春のつどい」は、特別感慨深かった。人質事件のあと、安倍政権の不甲斐なさ、国民の命を守ることでできない総理は必要ない。今日は、9条だけでなく、憲法前文を全文朗読したい想いだった。(伊豆の山 川瀬)

◆ 私がよく立ち寄る喫茶店があります。珈琲を飲みながら世間話や政治の話にもなりますが、色々な人がおられますから、考えもそれぞれ、憲法や憲法9条についてもそれぞれの考えがストレートに飛び交います。

「イスラム国」による日本人質事件は、人質となった湯川さん、後藤さんが相次ぎ殺害されるという残念な結果となりましたが、改めて国際社会から見た日本、平和憲法を持つ日本を考える上で大きなきっかけとなったと思います。

今回の人質事件は、自己責任論の声も多く聞かれます。以前から喫茶店で「日本の憲法は時代に合わない。変えるべきだ！ 日本も武力増強するべき。抑止力は必要！ 自衛隊の派兵だってやるべきだ！ 日本はアメリカに守ってもらっているのだから」とこれまで言っていた方の考えは、より一層改憲に傾いているのではないだろうか？ そんなことを思いながら、今度会った時にどんな意見が出るのか楽しみでもあり不安でもありました。

しかし、喫茶店で会い話をしていると、私の予想に反して、「今の憲法は守るべき。他国に自衛隊を

派兵するべきではない」と、これまでの見解から180度転換する内容でした。

そのきっかけとなったのがシリア問題でした。シリアが「日本は敵である」と明確に言い放ったことで、これまで世界から見た日本、戦争しないと誓った平和憲法を持つ日本と、近年「集団的自衛権」の行使容認を閣議決定し、アメリカと一緒に武力行使できる、戦争できる国づくりを進め、シリアに「日本は敵だ」と言わしめたことが、これまでの考えを変える切っ掛けとなっているようです。

世界から見ても日本の憲法は輝いているし、その役割は大きいと、改めて改憲勢力を跳ね除けて憲法を守らなければ平和な日本を後世には残せないと実感するとともに、その思いは多くの国民に広がっていると感じた出来事でした。(鈴木友之)

## 【入会しました】

### 原発ではなく9条を

千代田・『日本と原発』を自主上映する会 熊田洋子

寒々とした中で椿が凜として花を開かせています。この度、九条の会さかどに名を連ねさせていただけることを感謝申し上げます。

私は、埼玉県立高等学校教諭を数年前に早期退職した後、できる範囲内で社会問題に関わって参りました。その中で2月7日、『日本と原発』というドキュメンタリー映画を知りました。「脱原発弁護団全国連絡会」の代表である河合弁護士が福島原発事故の真実、被害状況、負の遺産、原子力村の構造など分かりやすく描いています。

あの「イスラム国」に殺害された後藤さんの解放に向けての動きの中で、トルコに対策本部を置くことに経産省、外務省、官邸が反対しました。なぜならトルコへの原発輸出に影響することを懸念したからです。

安倍政権は、東京オリンピック開催に向け、原発再稼働による電力確保の必要性を、またテロ防止を声高に叫びながら改憲を推し進めようとするでしょう。テロの標的として原発が狙われれば日本は壊滅します。原発再稼働、それによる政治献金源の確保、テロ防止を理由とした9条廃止と軍備費の大幅増額。思惑が透けて見えます。

残念なことに多くの国民は、福島原発事故すら「のど元過ぎれば……」であり、わが身に直接関係なければ関心を持ちません。あの原発事故の真実、背景、原発を持ち続けることのリスクの底なしの怖さなどを理解し、原発を廃止し、軍備ではなく9条を維持し続けることが真の勇気であることを知ってほしいと願ってやみません。

そこでこの映画『日本と原発』を、4月18日(土)坂戸市文化施設オルモで、2時と6時の2回上映することにしました。お誘いあわせてご覧いただければ幸いです。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

3月26日(木)10時~12時、4月23日(木)10時~12時

北坂戸出張所内「坂戸市民活動交流フロア」会議室(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)